

2026年3月期 第1四半期決算補足説明資料

2025年8月7日



レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

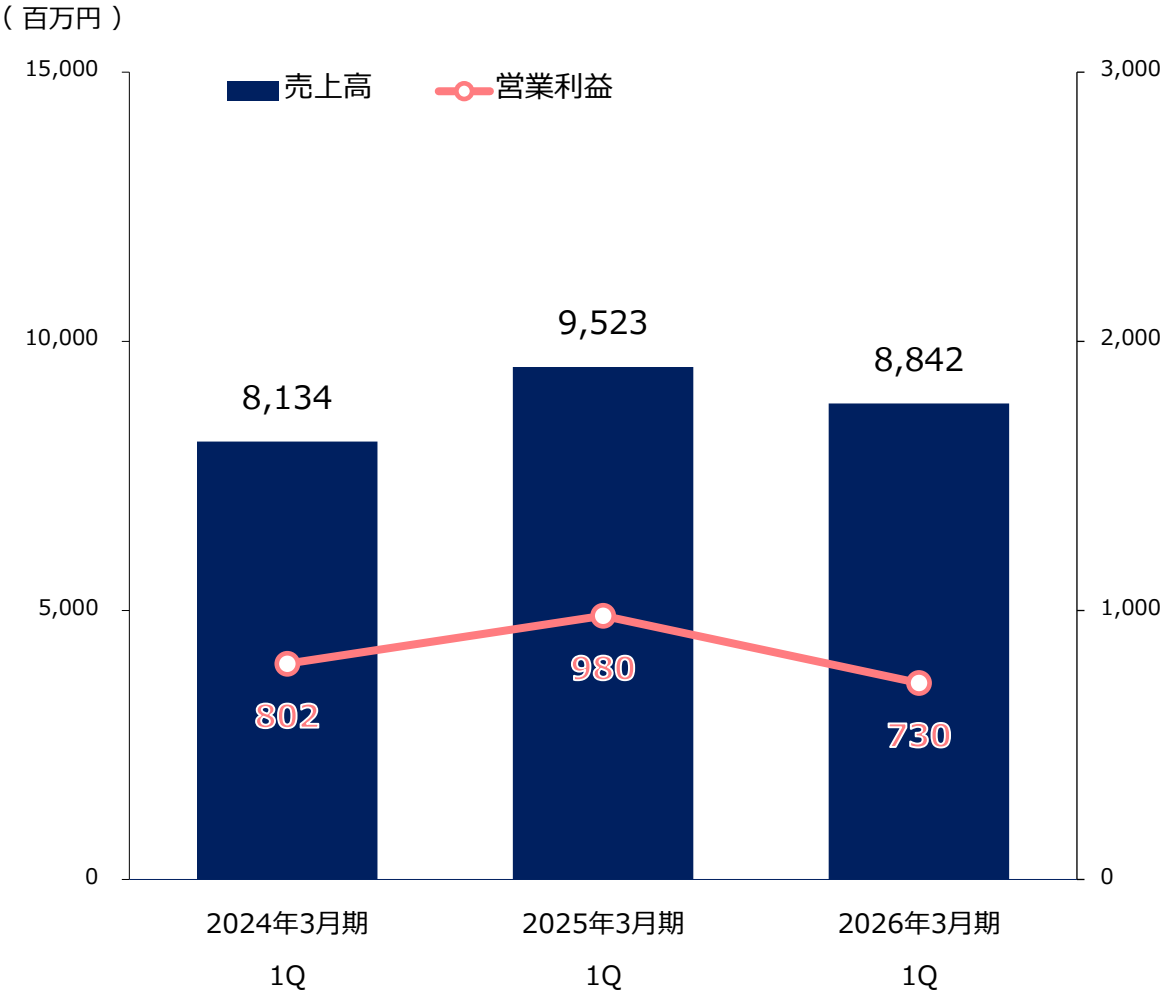
証券コード（6272）

◆ 連結計算書サマリー

(百万円)	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	増減額	増減率 (%)	2026年3月期 2Q累計計画 (進捗率)
売上高	9,523	8,842	▲681	▲7.2 %	19,550 (45.2%)
営業利益	980	730	▲250	▲25.5 %	2,460 (29.7%)
経常利益	1,079	707	▲372	▲34.5 %	2,380 (29.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	735	436	▲299	▲40.6 %	1,700 (25.6%)
期中平均為替レート	USドル= 155.89 円 ユーロ= 167.88 円	USドル=144.59 円 ユーロ= 163.80 円	—	—	USドル=140.00 円 ユーロ= 158.00 円

※四半期ごとの計画開示は行っていないため、第2四半期累計計画に対する進捗率を記載しております

◆ 過去3年の業績推移



USドル	137.36 円	155.89 円	144.59 円
ユーロ	149.47 円	167.88 円	163.80 円

主な増減要因

- 売上高・営業利益ともに前年同期比減少
- 為替が円高となり、売上高への為替影響額▲429百万円
- 主な減益要因
 - 売上総利益 ▲195百万円
 - 広告宣伝費 +74百万円（欧州展示会費用増等）

◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

食品加工機械製造販売事業

欧米市場の製パンラインの受注は好調に推移したが、日本の販売は低調であった。

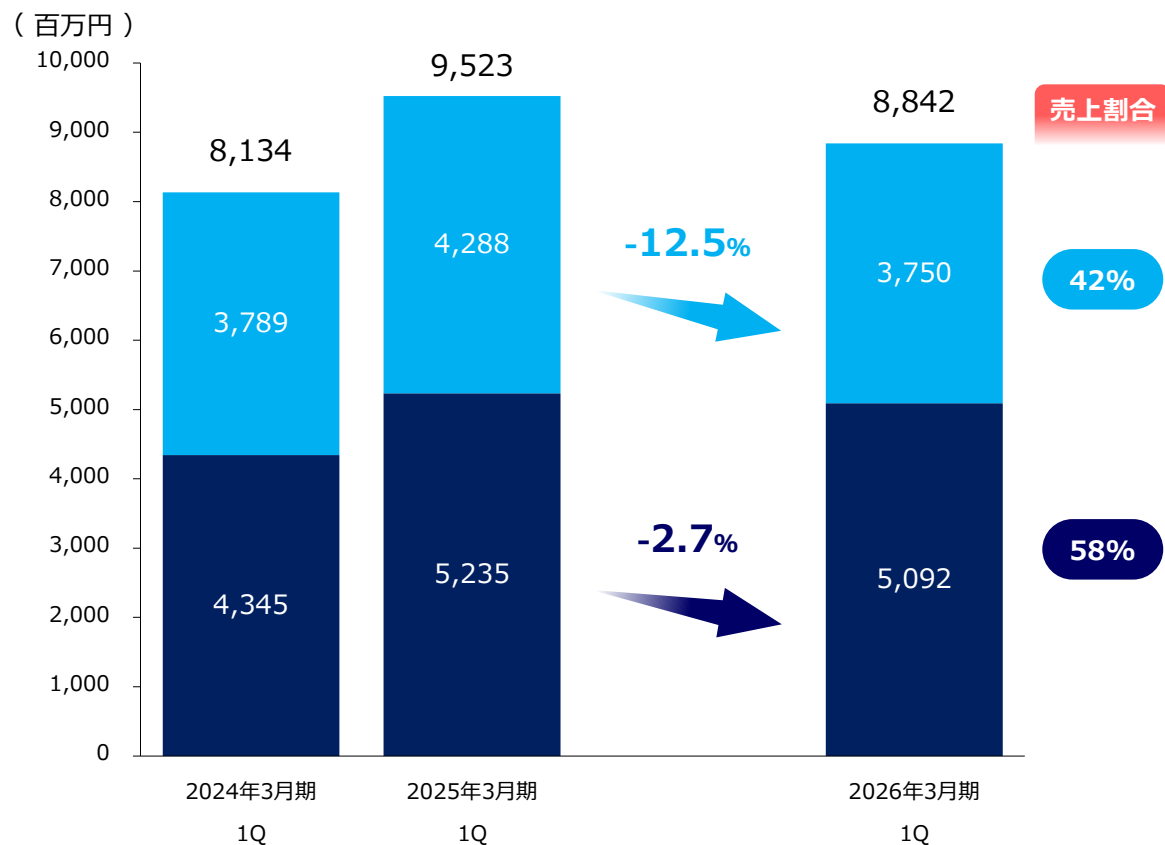
食品製造販売事業

アメリカにおいて終売先が発生し減収となったが、利益率は同水準を維持した。

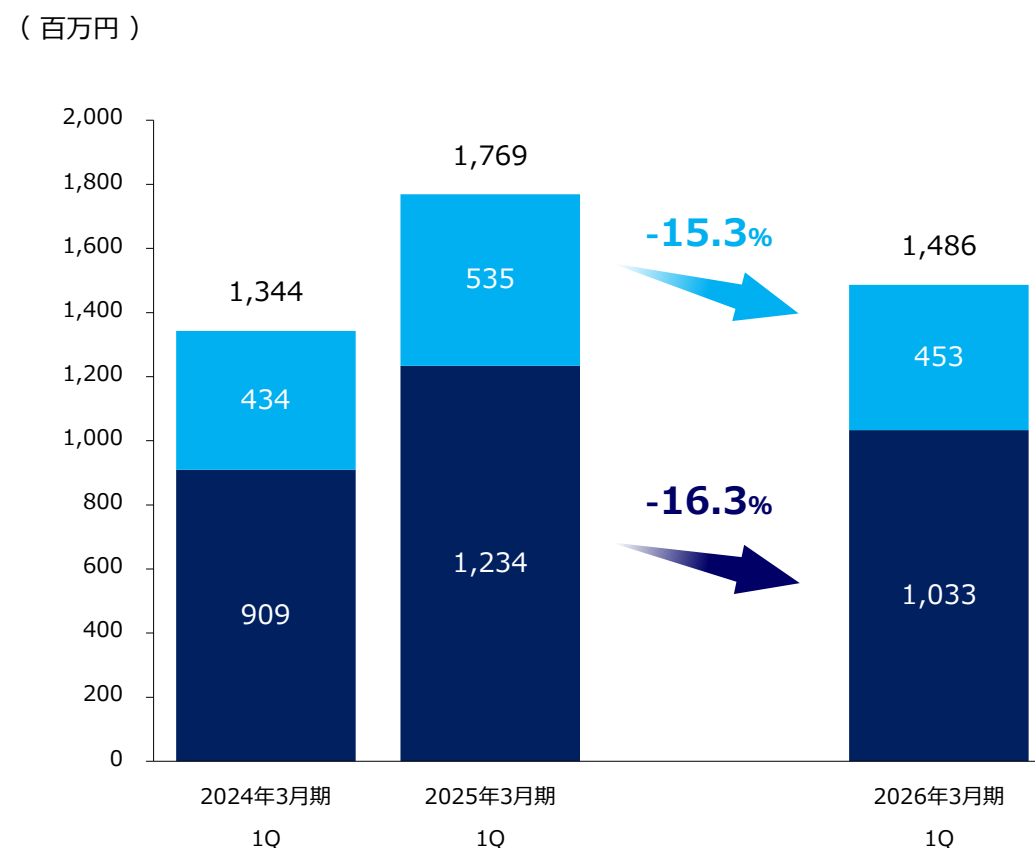
■ 食品加工機械製造販売事業

■ 食品製造販売事業

売上高



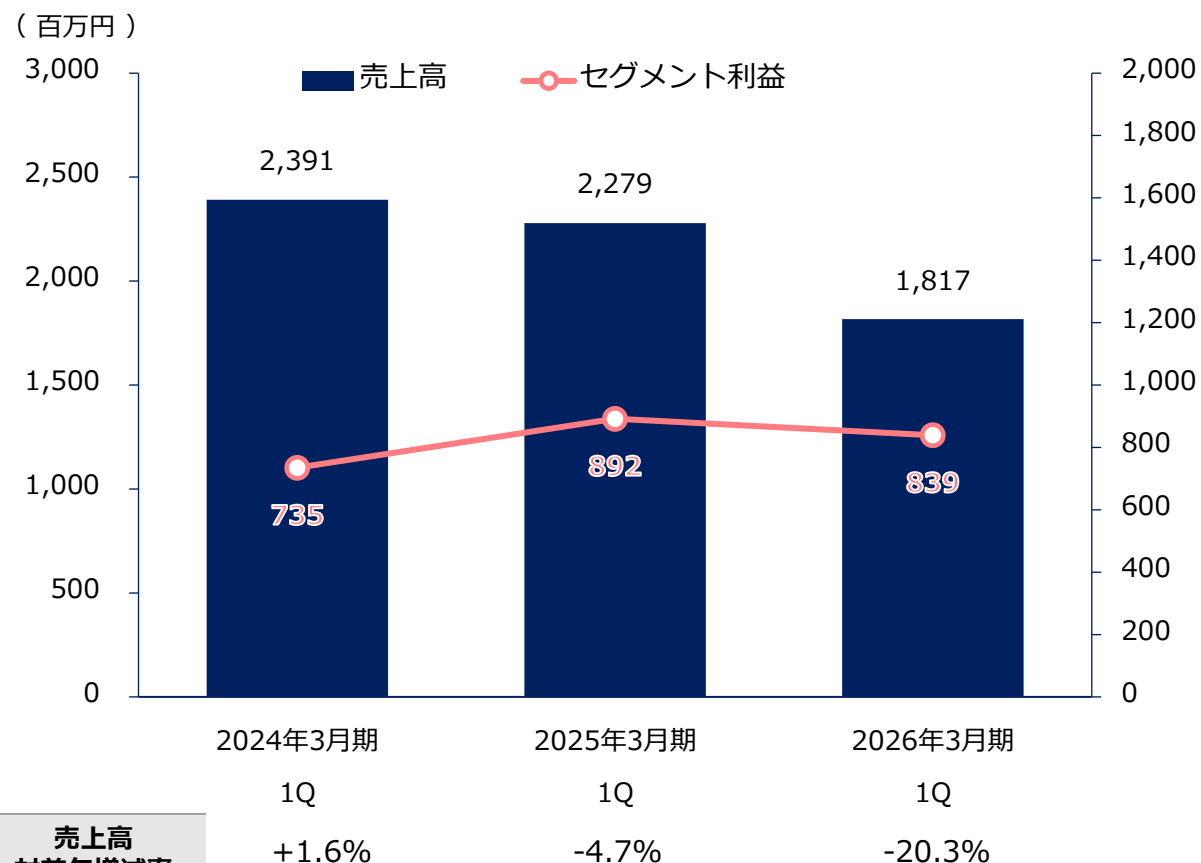
セグメント利益



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 食品成形機・仕入商品の売上減少により減収となったが、大手メーカーの製パンライン需要は継続。
- 2Q納期案件は1Q比で増加する予定であり、減収幅は縮小する見込み。

売上高・セグメント利益



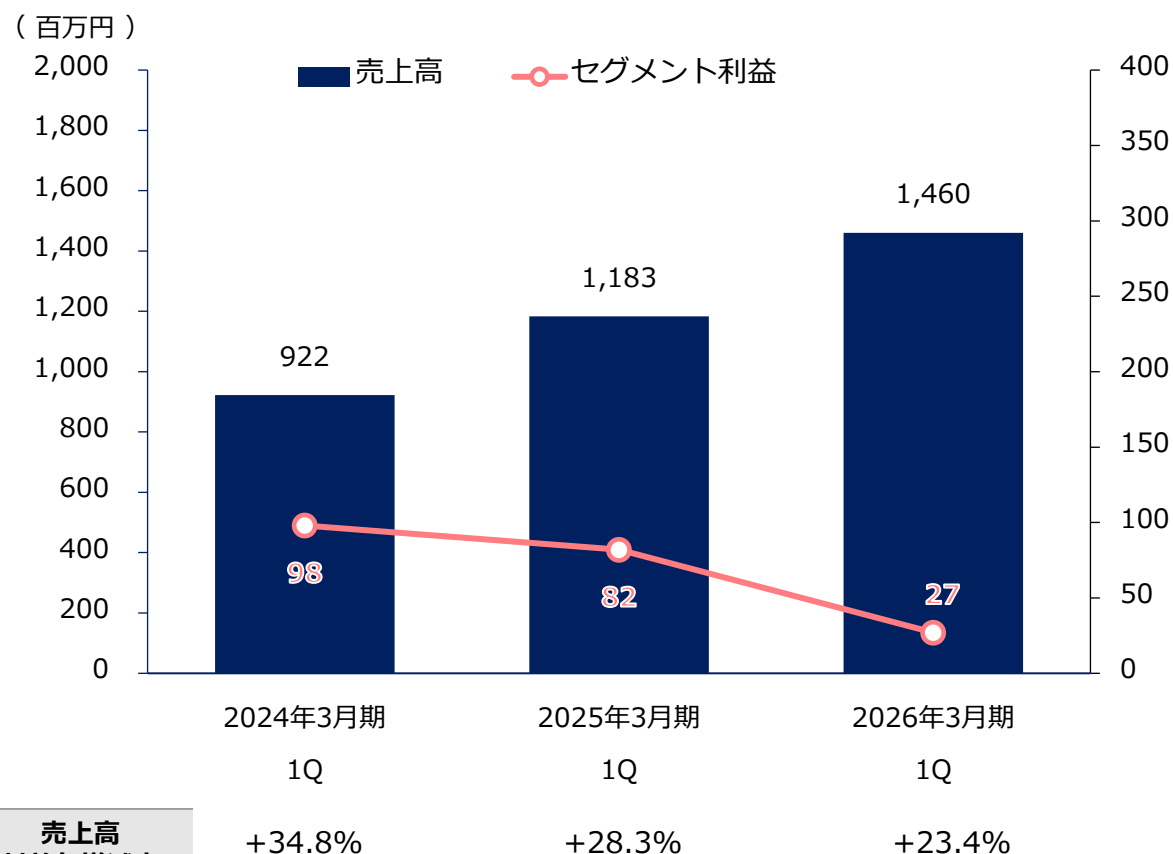
主な増減要因

- 製パンラインの需要は引き続き堅調
- 修理その他の売上は計画通りに推移

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッドやコンチャ生産ラインの販売が引き続き好調で売上が増加。
- 輸入関税の影響は不透明であるが、製パンラインの今期受注残は確保できている。

売上高・セグメント利益



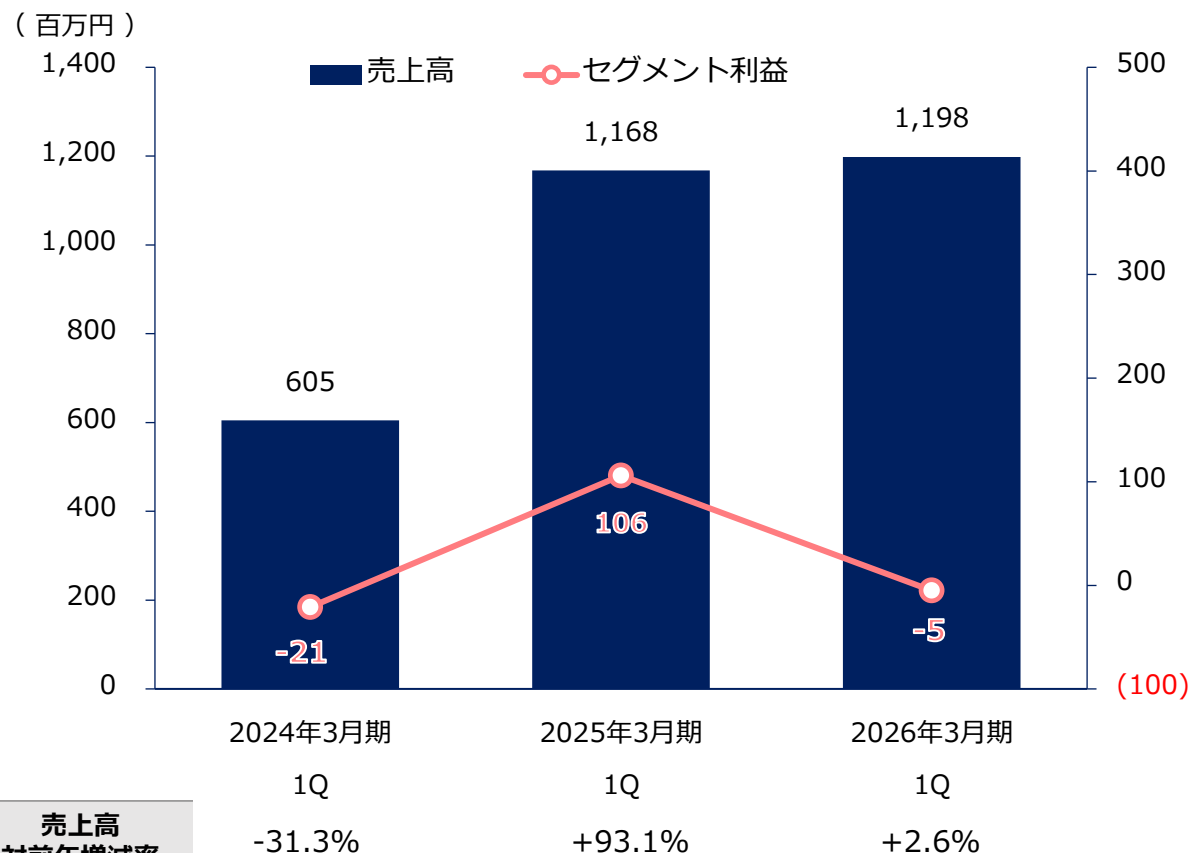
主な増減要因

- 現地通貨ベースでの売上高は
対前年比33.1%アップ
- セールスマックスによる売上原価率の上昇

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 製パンライン等は小型製パン機の販売が好調を維持しており、上半期の受注残をほぼ確保できている状況。
- 1Qは大型展示会費用の支払により広告宣伝費が増加したが、2Q以降は落ち着いていく見込み。

売上高・セグメント利益



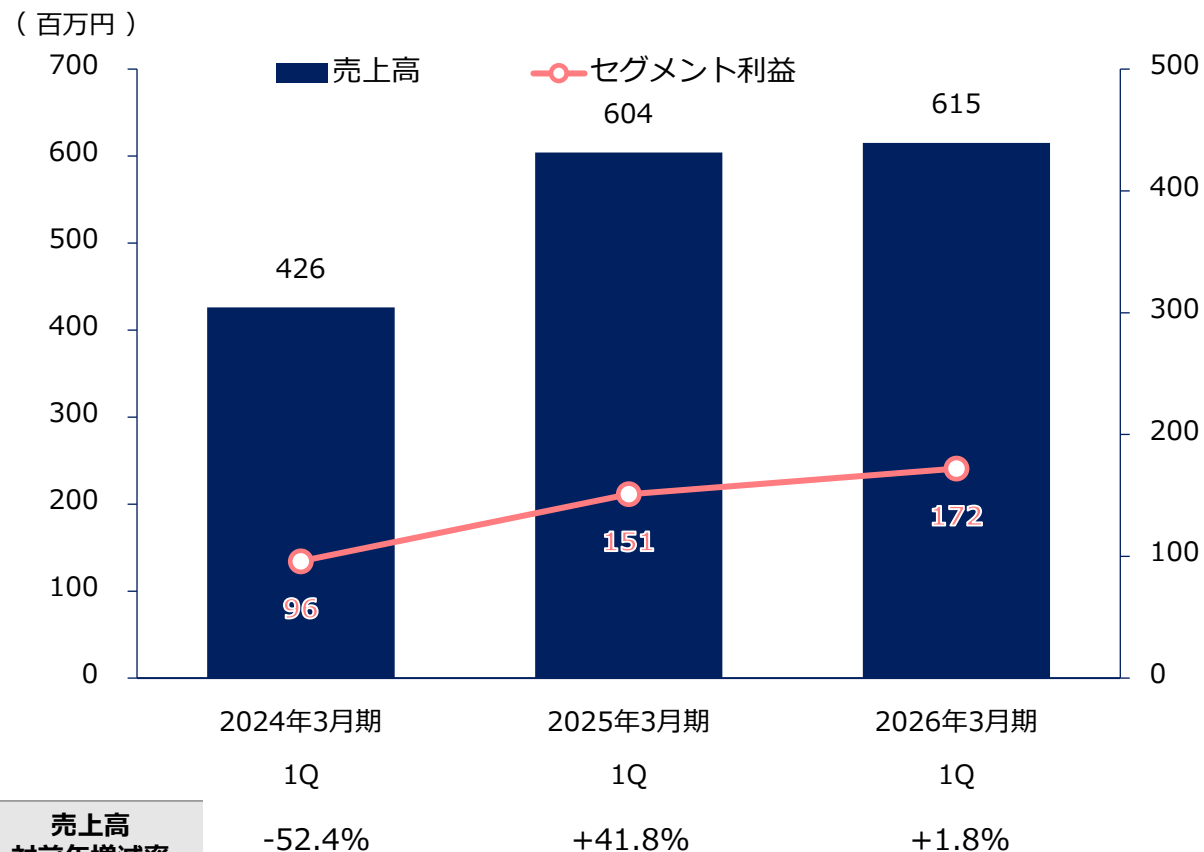
主な増減要因

- 現地通貨ベースでの売上高は
対前年比5.1%アップ
- 広告宣伝費および販売手数料の増加により減益

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 食品成形機の大型受注案件確保等により増収となった。
- 2Q納期案件は1Q比で増加する予定であり、上半期の計画を達成見込み。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 東南アジアの食品成形機の売上が好調

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

売上高

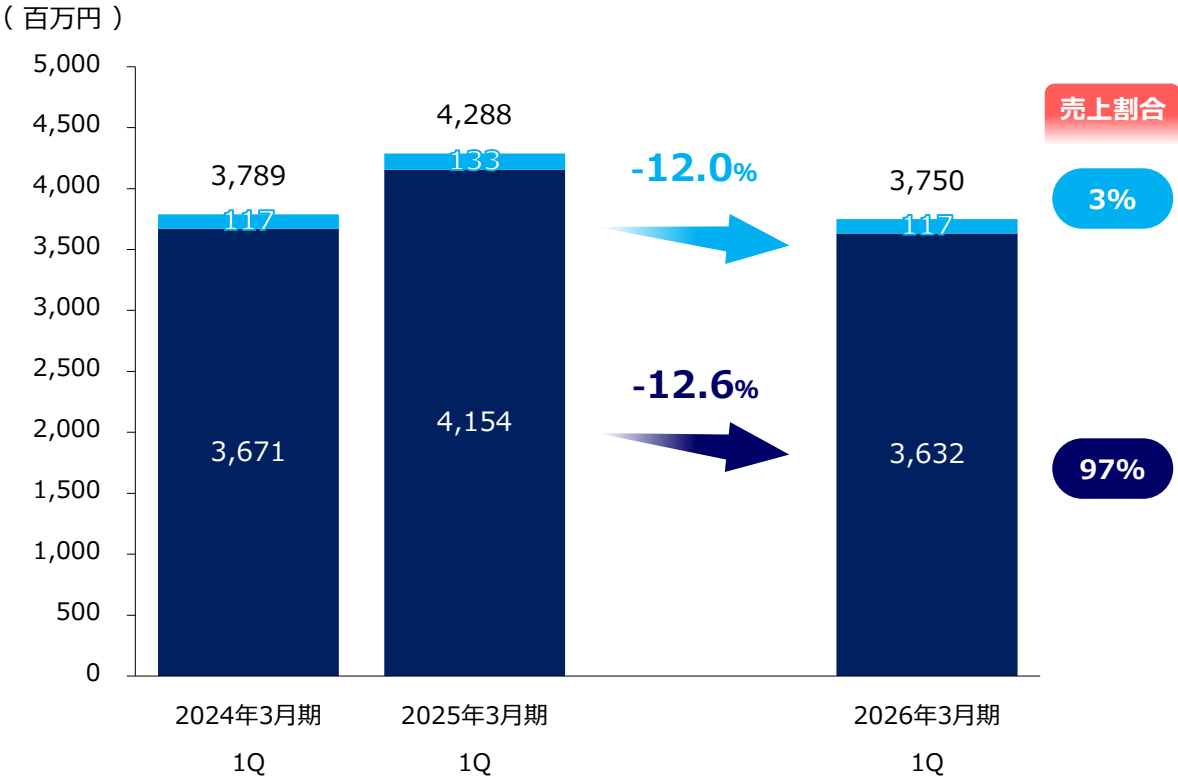
- 北米・南米 円高進行により大幅減収となったが、現地通貨ベースでは▲5.7%の減収。
- 日本 国内主要先の需要低迷により減収、アジア向け販売は堅調に推移。

セグメント利益

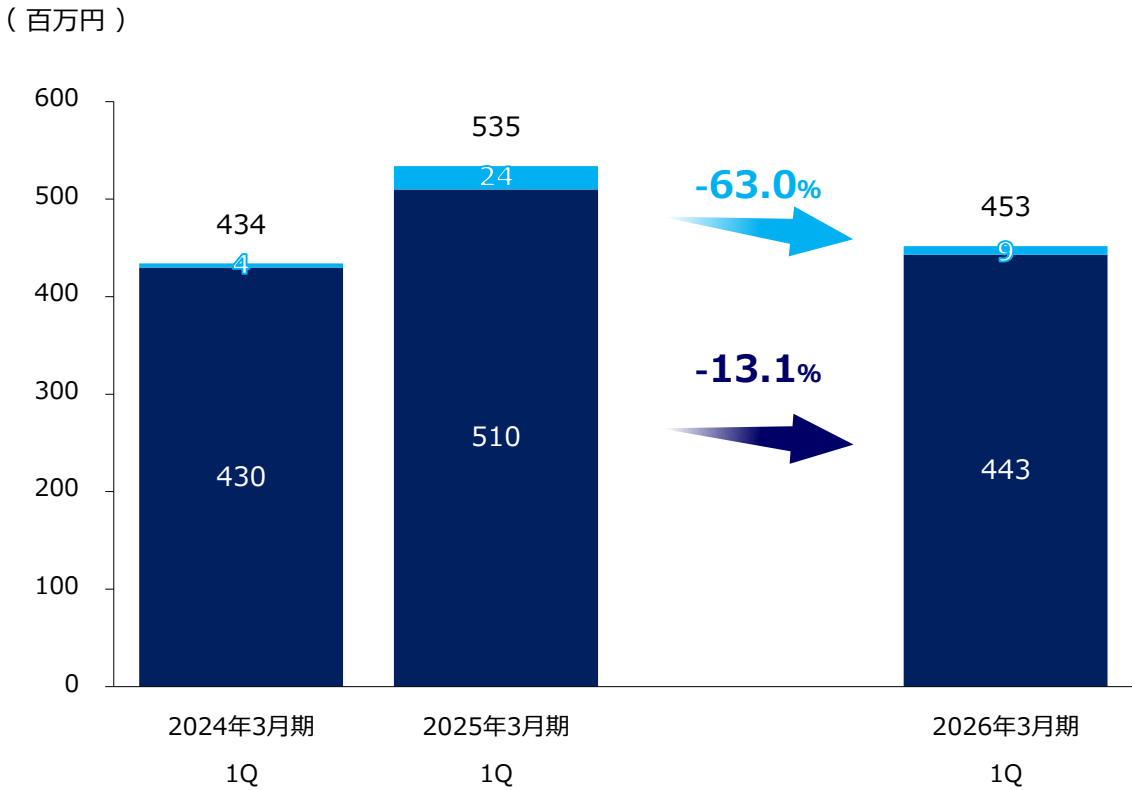
- 北米・南米 原材料費や輸送費などのコストが安定しており同水準の利益率を維持。
- 日本 売上大幅減収により利益水準も低下。

■ 北米・南米（オレンジベーカーリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）

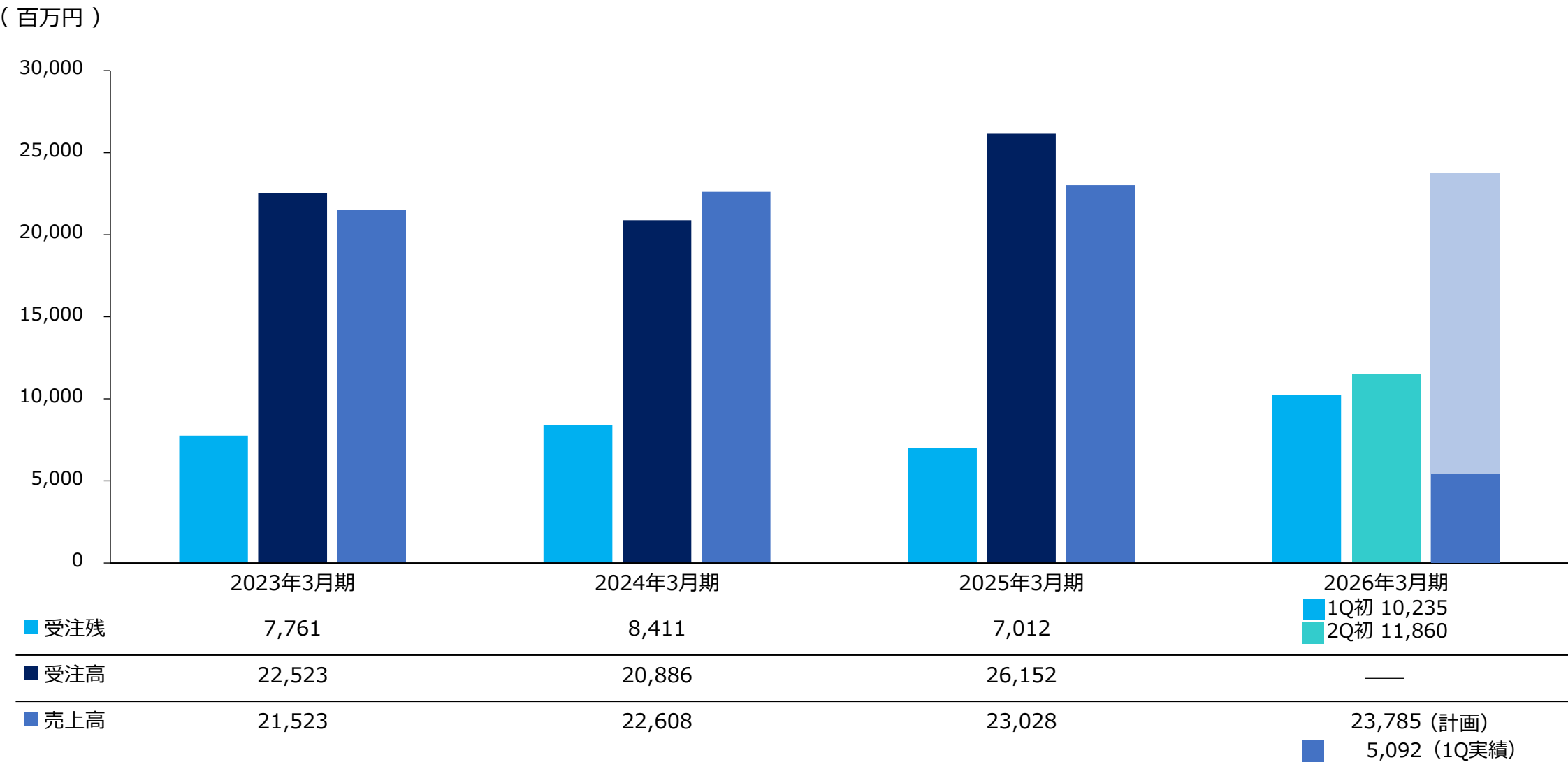
売上高



セグメント利益



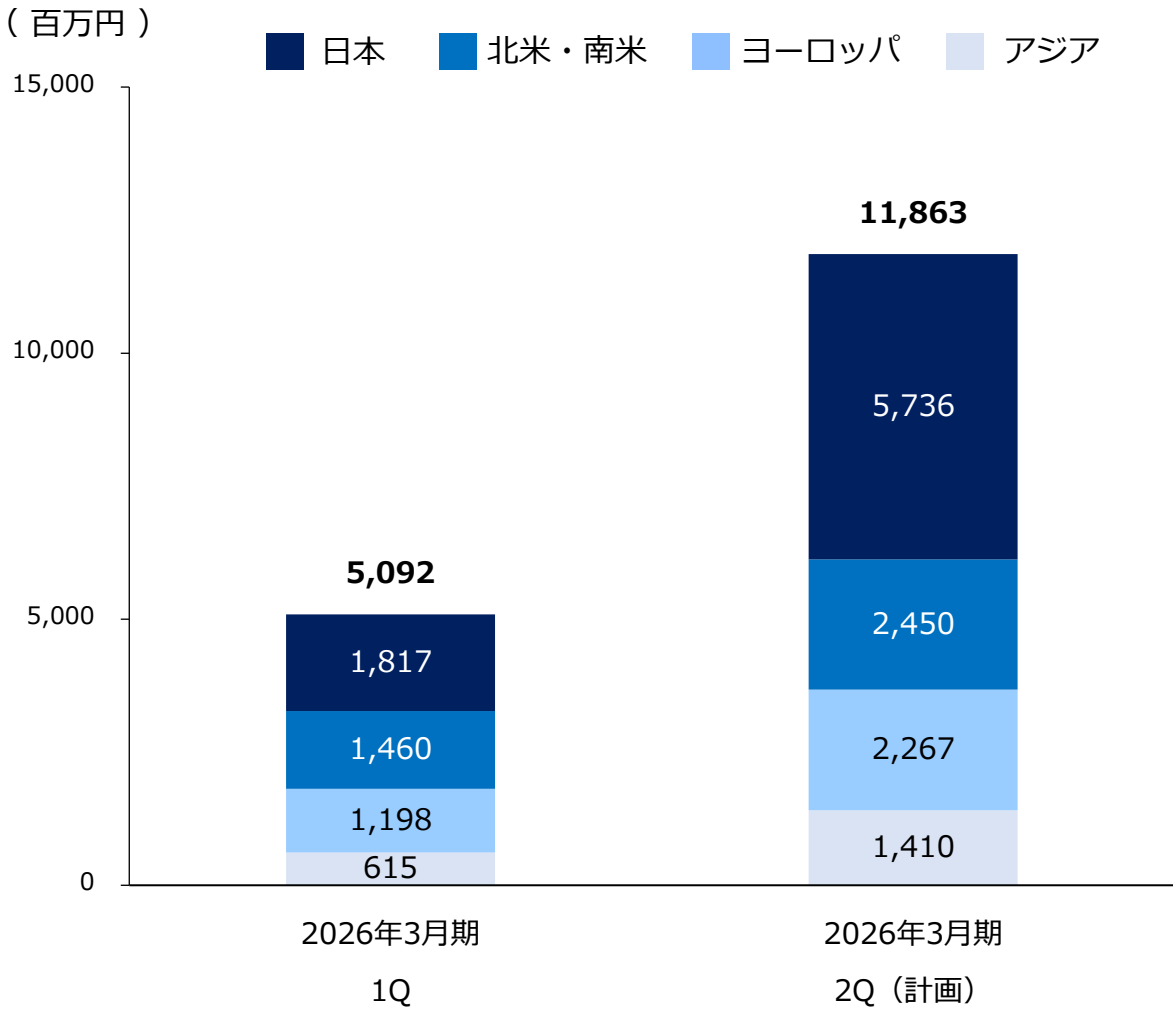
◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



※受注残は4月1日時点

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測

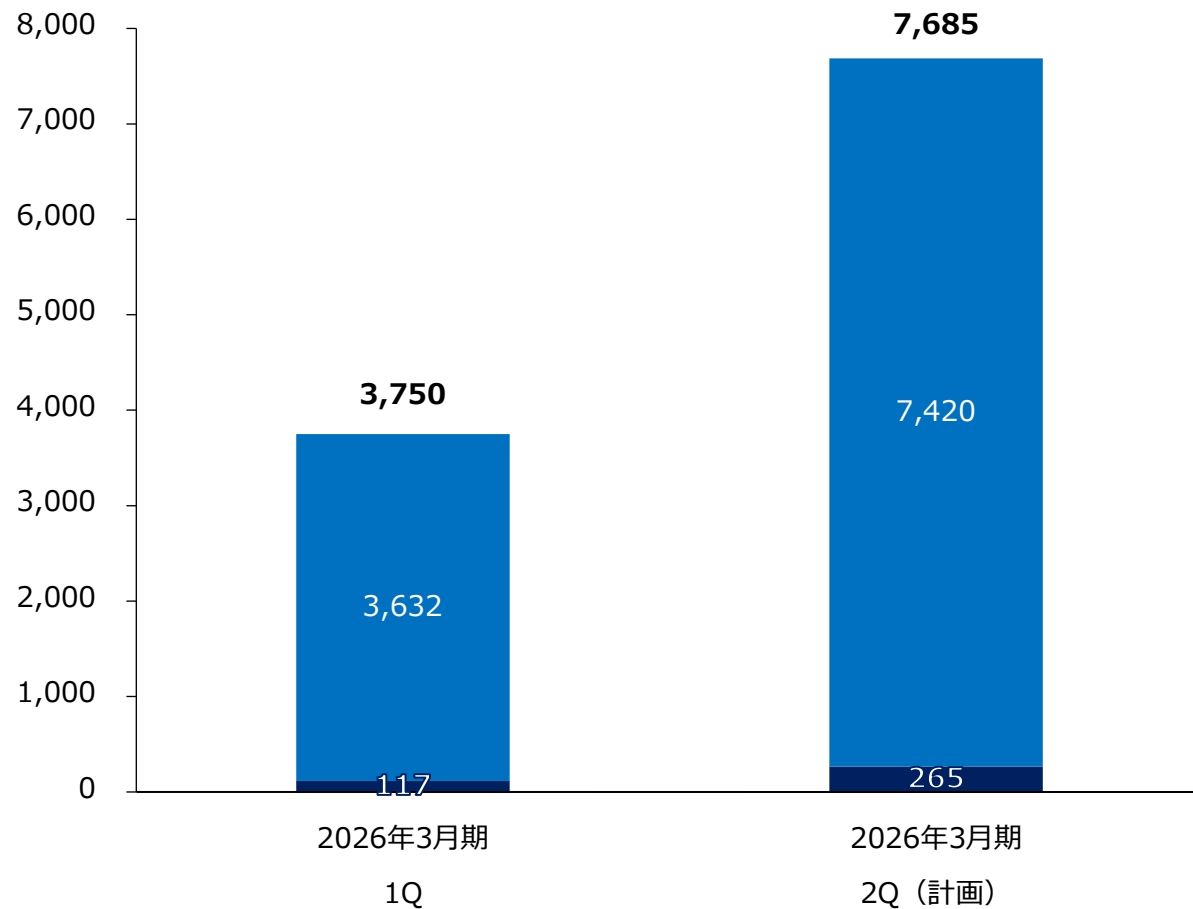


日本	● 製パンライン等の受注案件の納期が2Q以降増加していく見込み ● 食品成形機案件は「中小企業省力化補助金」を活用した回復を見込む ● 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想、通期計画の達成を見込む
北米・南米	● 製パンライン等の好調な受注が継続 ● 9月開催の展示会（IBIE）で見込客の更なる発掘を見込む ● 輸入関税の影響は不透明であるが、人件費高騰や生産コスト削減に向けた設備投資需要は継続するものと予想
ヨーロッパ	● 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での売上増加を見込む ● 今期は、小型機に加え、ペストリーライン等の大型ラインの受注もあり、前年を上回る売上を見込む
アジア	● 中国では下半期に大型案件の売上計上を見込んでおり、食品成形機や製パンライン等の販売により売上拡大を図る ● 韓国・台湾・ベトナムに大型製パンラインの受注があり、好調を維持 ● 東南アジアでは包あん機の大口案件を受注するなど好調を維持 ● インドマーケットでは、火星人や製パンライン等の受注が増加し、市場への普及が進んでいる。

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

売上高予測

(百万円) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種) ■ 北米・南米 (オレンジベーカリー)



北米・南米 (オレンジベーカリー)

- 終売先の発生により上半期は減収見込み
- 新規先への新商品提案営業を強化し下半期での回復を図る

日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- 新規展示会に出展し商品の拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2025年3月期 (2025年3月31日)		2026年3月期 1Q (2025年6月30日)				
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	49,242	100 %	48,354	100 %	▲888	▲1.8 %	—
流動資産	29,073	59.0 %	28,005	57.9 %	▲1,068	▲3.7 %	● 現金及び預金の減少 ● 受取手形及び売掛金の減少 など
固定資産	20,168	41.0 %	20,348	42.1 %	180	0.9 %	● 有形固定資産の増加 など
負債合計	10,527	21.4 %	10,118	20.9 %	▲409	▲3.9 %	—
流動負債	8,867	18.0 %	8,641	17.9 %	▲226	▲2.5 %	● 支払手形及び買掛金の減少 ● 前受金の増加 など
固定負債	1,660	3.4 %	1,476	3.0 %	▲184	▲11.1 %	● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の減少 など
純資産合計	38,715	78.6 %	38,235	79.1 %	▲480	▲1.2 %	● 利益剰余金の減少 ● 為替換算調整勘定の減少 など
負債純資産合計	49,242	100 %	48,354	100 %	▲888	▲1.8 %	—



《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。